

先進事例 紹介

消防力の強化をめざし消防広域化

大阪府 箕面市消防本部

1 箕面市消防本部管轄区域の概要

箕面市消防本部は、豊能町の消防事務を受託し、平成28年4月1日から消防広域化の運用を開始しました。

箕面市は、大阪府の北西部に位置し、人口は約13万6千人、市域の面積47.90km²で、北部は北摂山系箕面連山からなり、明治の森箕面国定公園を擁し、自然に恵まれた住宅都市として発展しています。

今後、交通アクセスとして、新名神高速道路の開通、北大阪急行線の延伸が予定されています。

豊能町は、大阪府北部の北摂山地の地域に位置し、人口は約2万人、町域の面積は34.34km²で大都市近郊にありながら、四季を通じて豊かな自然に彩られたまちとなっています。

両市町の管轄区域の安全と安心を担うため、1本部2署2分署1出張所、職員140名が消防業務に従事しています。



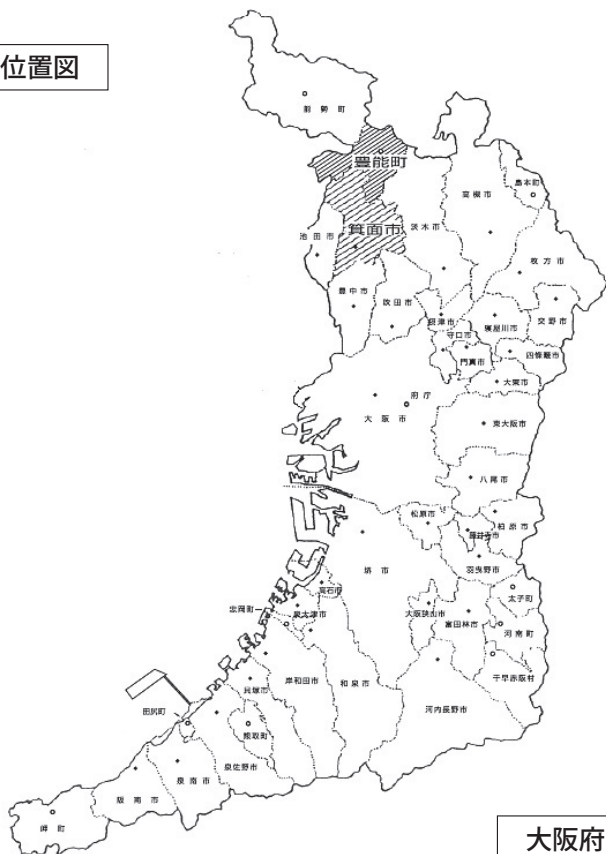
箕面市消防本部・箕面消防署

2 広域化に至る経緯

消防広域化については「大阪府消防広域化推進計画」に基づき検討していましたが、箕面市と豊能町は、箕面市北部地域と豊能町南部地域が隣接している地理的条件を活かし、平成元年度から箕面市・豊能町消防相互応援協定に基づき、箕面市北部地域の救急業務を豊能町が担ってきました。平成23年度からは同地域の消防業務を豊能町へ委託すると同時に、通信指令業務や消防救急デジタル無線を共同運用するなど、体制強化に向けた消防連携を進めるとともに、平成26年度からは更なる消防力の充実強化を図るため、消防広域化の協議を開始しました。

箕面市は北部地域の人口増加に加え、新名神高速道路の開通等による消防需要の増加を課題とし、一方、豊能町は高齢化による救急業務の増加等による災害時の初動体制の強化が課題となっていました。両市町の抱える課題を解決するため、本部機能の一本化による事務の合理化や人員・車輛配置の見直しなど、スケールメリットを活かした効率的な運営をめざすため、平成28年4月から豊能町の消防事務の全部(消防団や消防水利に関する事務を除く)を箕面市が受託する消防広域化に至りました。

位置図



大阪府

3 広域化の効果

広域化の効果として、次の点が挙げられます。

- ① 活動できる消防隊・救急隊の総数が増加するため、重複する災害対応が可能となります。
- ② 今後、箕面市北部地域に新名神高速道路が開通するなど多様化する災害・事故に対しても、総力で消火・救急活動を行うことが可能になります。
- ③ 本部機能の一本化による事務の合理化や人員・車輛配置の見直しなど、スケールメリットを活かした消防力の強化と効率的運用ができます。
- ④ 箕面市から豊能町へ職員の派遣を行い豊能町消防団との協力体制を構築しています。



豊能消防署（旧豊能町消防本部庁舎）

箕面市消防本部

- ・署所：1本部1署2分署
- ・人員：7隊108名
- ・車輛：22台(消防車輛)
- ・管轄面積：47.90 km²

豊能町消防本部

- ・署所：1本部1署1出張所
- ・人員：3隊40名
- ・車輛：8台(消防車輛)
- ・管轄面積：34.34 km²



箕面市消防本部

- ・署 所：1本部2署2分署1出張所
- ・人 員：10隊140名
- ・車 輛：30台(消防車輛)
- ・管轄面積：82.24 km²

新組織体制



広域化に伴う辞令交付式（市長発令）

4 その他の連携

箕面市と隣接する豊中市は、消防力の強化を図りながら消防機材を有効に活用するため、豊中市保有の35メートル級はしご車を平成24年10月から共同で運用しています。「はしご付消防自動車共同運用に係る消防相互応援協定」を締結し、運用に伴う費用を按分し負担することで、箕面市消防本部管内の中高層火災、救助等に豊中市のはしご車が出動することとなっています。

5 おわりに

平成28年4月の消防広域化に伴い新生「箕面市消防本部」として誕生し、広域化の初年度から両市町の全世帯へお伺いする「住宅防火訪問」を実施して、住宅用火災警報器の普及啓発に努めています。今後も、住民目線での消防サービスの向上をめざし、地域住民の安全・安心なまちづくりのため、職員が一丸となり取り組んでまいります。



新生「箕面市消防本部」誕生（除幕式の様子）